

AUDIO VISUAL MAGAZINE 【ハイヴィ】

# HiVi

自宅を映画館にする方法

9

2019  
SEPTEMBER



# CINEMA IN HOME

シネマ・イン・ホーム



CINEMA IN HOME

ホーム編

03



宮崎県小林市

原田隆広さん

Text：本誌・柿沼

## かつては諦めたサラウンド。 今なら“後付け”でもここまでできる

**宮** 崎県といえば宮崎市と霧島酒造でお馴染の都城市が有名だが、うかがったお宅は小林市。フランス語に聞こえる。西諸弁のPR動画で話題になった場所だ。現在もYouTubeで閲覧できるので、気になった方は一度ご覧いただきたい。

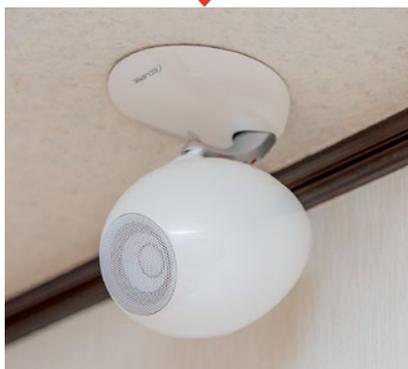
さて、こちらで迎えてくださったオーナーの原田隆広さんは、YouTubeで観た動画のように素晴らしい西諸弁を話す……わけはなく、いきなり「アナログサラウンド」時代の思い出、ということでも共感できる、わかりやすい話を始めてくれた。

時は80年代後半。「サラウンド」は前述の通り当然アナログによるもので、リアスピーカーはモノラルで帯域制限もかかっているという時代だった。その頃からの映画ファンだった原田さんは自宅にサラウンドシステムと、大画面、ブラウン管テレビを導入。「これですごいサラウンドが楽しめる」と考えたものの、投資金額に対して思ったようなサラウンド効果は得られず、結局AV趣味は凍結状態になってしまっていたのだという。

このAV熱が再燃したのがごく最近のこと。施工をお願いした木田電業では「ホームシアターで音楽や映画を楽しもう」という趣旨のイベントを定期的に開催しており、そこに参加したことで昨



▲合計7本のスピーカーはすべて天井に設置。後付けとはいえ、配線は壁の中にしっかり隠してあり、美しい仕上がり。木田電業によれば、難易度に差はあれども、たいていの場合壁内配線は対応可能とのこと。まずは相談してみるのが吉だろう



▲スピーカーはイクリプスのTD307MK2Aで統一。全ch同一スピーカーだからそのつながりのいいサラウンドを見込める



▲小型スピーカーでのサラウンドシステムに必須となるのが、優れたサブウーファーの存在。ここでは同じイクリプスのTD316SWMK2を使う

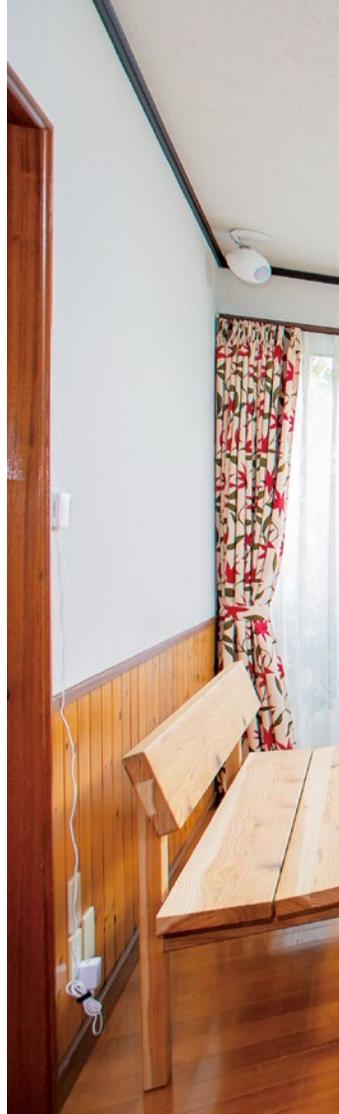


◀オーナーの原田隆広さんと奥様。ここでゲームをすることもあれば、ふたりで映画をみることもあるという

システムは、数が増えても破綻することなくスムーズなサラウンド空間を再現できるのだ。さらに、1本2万円程度とコスト的にも優れており、導入のハードルを下げられることも見逃

couldn't hear the text in this block. I will skip it as it is not clearly legible in the image.

今のオーディオビジュアルシステムの進化にいたく感動したのだ。  
原田さんが選んだのは、生活をしている「既築」の戸建にスピーカーなどを設置するいわば「後付け」の施工。リノベーションほど大きなコストをかけることなく、しかもかつてのアナログサラウンドを優に超えるサラウンドの臨場感を得ることができたという。  
ここで一役買ったのがイクリプスのTD307MK2A。リビングへのホームシアター導入をという希望を叶えるには、小型で設置のための角度調整が自在というこのスピーカーが最適だった。しかも、とかくスピーカーの本数が増えがちな最新サラウンド規格とも相性がいい。位相管理が徹底されたこのフルレンジスピーカーシステムは、数が増えても破綻することなくスムーズなサラウンド空間を再現できるのだ。さらに、1本2万円程度とコスト的にも優れており、導入のハードルを下げられることも見逃





▲スピーカーを駆動するAVセンターはヤマハの最新モデルRX-A1080。コンテンツに合わせて自動的に音場創生を行なう「SURROUND:AI」を搭載



▲UHDブルーレイプレーヤーのほか、スカパー！プレミアムサービスのチューナーも用意。放送でも4Kを楽しむ



▲ハイレゾファイルの再生用にNAS (QNAP) も稼働中。これとRX-A1080でハイレゾ再生を楽しむほか、QNAPのアプリで宅外での音楽再生にも対応する



▲ホームシアター完成後、オーナー独自の趣味でAIスピーカーを導入。「シアターを開始」というように声をかけると、ディスプレイやAVセンターの切替えが行なわれるようプログラムを組んでいる



◀壁内に配線されたスピーカーケーブルはAVセンターのうしろへ。短い距離ではあるが、サブウーファースのケーブルも隠蔽する細やかな仕事が行なわれていた

このドルビーアトモス対応システムでハマっているのが、音楽ライブ作品の再生。最近では桑田佳祐やマン・ウィズ・ア・ミッションのブルーレイで得られる広い会場の臨場感がお気に入りだという。特に、マン・ウィズ・ア・ミッションについては、以前宮崎公演があった際に急病でライブに行けなくなったという経緯があったそう。この11月には同バンドの宮崎公演が控えている。しばらくは、このホームシアターで賢沢な「予習」をする日々が続きそう。

本来であればフロントとサラウンドスピーカーは床に置き、高低差を付けるためにトップスピーカーは天井へ、というのがセオリーだが、リビングの生活動線確保を重視してすべてのスピーカーを天井設置。実際に、理想的な配置ではなくともトップスピーカーがあるかないとは大違いなのだ。

せない特徴だろう。AV趣味は凍結状態だったと言っても、映像・音声の最新規格については随時チェック、3年ほど前にはLGの有機ELテレビOLED65B6Pを購入していたそう。そちらで映像の4K&HDRには対応済みで、今回の施工ではさらに音声の最新規格はどうか？ということでドルビーアトモスへの対応がテーマとなった。



◀キッチン側には採光窓があるため、日中でも遮光なしで使える有機ELテレビはおいに役立っているようだ

**BEFORE**



**AFTER**

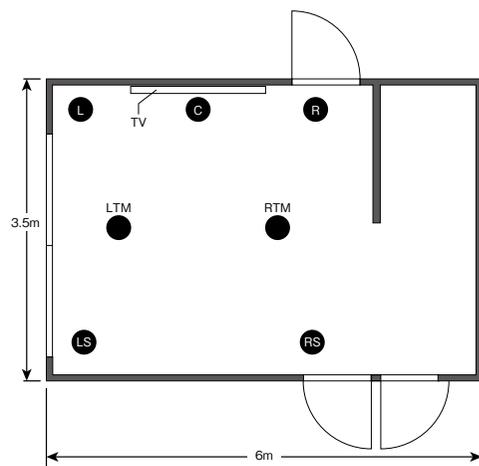


▲スピーカー導入と同時に、DIYで2×4材に固定していたテレビも壁掛け仕様に。スピーカーの天井は生活動線のためもあるが、スピーカー間の距離を広くとって、サラウンドで得られる音場を広くするためもある。また、スピーカーのセンターに合わせてディスプレイ、照明までセンター合わせにしていることも注目したい

**AUDIO VISUAL SYSTEM**

- スピーカーシステム：イクリプス TD307MK2A、TD316WMK2
- ディスプレイ：LG OLED65B6P
- AVセンター：ヤマハ RX-A1080
- UHDブルーレイプレーヤー：LG UBK90

インストールショップ  
 木田電業（都城ショールーム）  
 宮崎県都城市山之口町富吉4192-4  
 ☎0986(57)4305  
 kida-dengyo.com

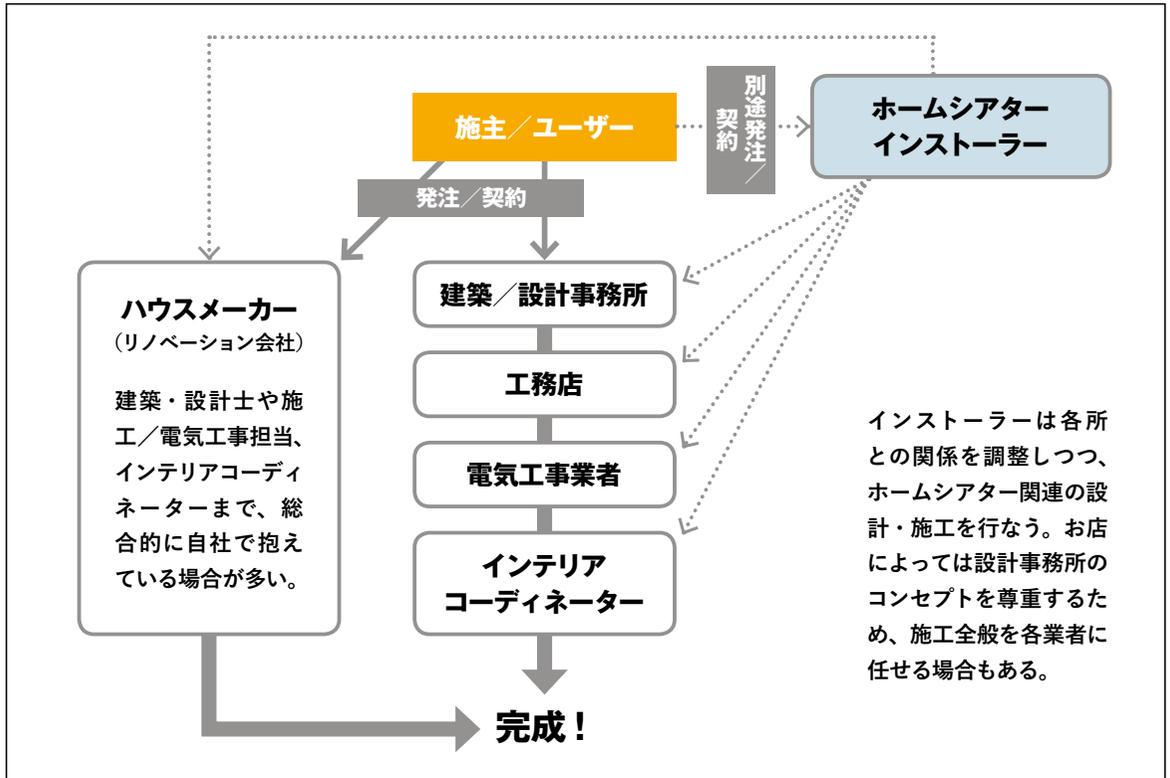


ホームシアターをつくりたい、と思ったときに相談すべきなのがその道のプロ。ここまで紹介してきたカスタムインストーラーがそうであり、わからないことを解決してくれるのがその存在意義ということになる。しかし、素人が相談・打合せに行けば「何がわからないのかが、わからない」ということになりがち。ここでは、プロとの打合せまでに想定しておくべき「施工時のTIPS」をまとめてご紹介する。

事前に知っておきたい

# 施工時のTIPS

## 施工時のTIPS 1：インストール編



▲ハウスメーカーと建築事務所、工務店、ホームシアターインストーラーの関係性はおおまかに言って上図の通り。とはいえ、家づくりのどの部分を誰が担当するかは流動的。ハウスメーカーや建築事務所が設計・インテリアコーディネートなどの部門を受け持つ場合が多く、実際の施工は工務店が担当するといった具合だ。ユーザーとしては、設計からの作業を建築士を擁する工務店に直接相談する場合もありうる。この場合は予算を抑えられるというメリットが考えられる

Text：本誌・柿沼

例えばハウスメーカーに住宅の注文をする場合、メーカー内に設計や施工を行なう部門を抱えている場合もあるが、施工の実作業は工務店（≠大工）への外注となる場合もある。独立した建築事務所が設計を担当するとなれば、関係者がさらに増える。そして、そこに参加するのがホームシアターのカスタムインストーラー。施主とハウスメーカー、建築事務所、工務店などの橋渡しとなってくれる。基本的にはすでに設計された家に対して、シアター向けの施工を実現するために設計図に手を加えて提案したり、実

## ホ

ホームシアターをつくらうとする方は、家の新築、リノベーションに際して、せつかくだからと思いつつが多いという。この場合注意したいのは、家を一軒建てるためには関係者が多数になりがちだということ。当然に家を発注した先、主にメーカーや建築事務所が家づくりの監督をつとめるわけだが、施主も惚けてはいられない。多くの関係者をまとめあげて希望通りの施工を実現するためには、プロジェクトの最終決定権者としてリーダーシップを発揮する必要があるのだ。このとき、実際に何を考えておけばいいのだろうか。『電業』を本業としているため、設計や電気工事にも詳しい宮崎のホームシアターインストーラー木田電業に話をうかがった。



▲木田電業では、設計図（展開図）、あるいは実地調査を元に施工のための設計図、イメージ図を制作する。仕上がりが想像しやすいので、施主にとってはありがたい対応だ



▲左のイメージ図の、実際の仕上がり。リノベーション案件であったため、実地の下見は必須であったという。どのような家具、照明を使っているか、竣工時の設計図から変更した点はないか、確認が必要になるのだ

## INFORMATION

### インストールショップ

木田電業（都城ショールーム）

宮崎県都城市山之口町富吉4192-4 ☎0986(57)4305



取材に応じてくれたのは、宮崎のホームシアターインストラー木田電業。もともと電気工事が専門の彼らだからこそわかる、家づくりに関する各業者の連携の重要性をうかがった。担当物件は24ページで紹介



▲こちらは24から27ページで紹介した原田さんのご自宅の屋根裏。設計図から、天井裏への配線工事が可能であることはわかっていたため、施工はスムーズだった。しかし、各室の天井までを不燃材の石膏ボードで覆う「準耐火構造」や、床板を支えるための根太を使わない「根太レス」床など昨今採用例の多い構造は、壁内配線に支障が出るケースもあるという。その意味でも、インストラーへの相談はとにかく早めが吉

作業を行なう工務店に指示を出すということになる。ここで重要になるのが関係各位のベイスになる設計図の存在。一般的に施主が気にするのは2次元で表された間取りの平面図がメインだが、高さなどもしっかりと併記された展開図を共有できるのが望ましいという。それは当たり前だろうと思われるかもしれないが、完璧なものを手配できないケースも多々あるのだそう。例えば、現場の判断で仕様が変更され、それが仕様書に反映されない場合もある。さらには、施主が2次元の間取り図しか持っていないということも……。平面の間取り図だけをインストラーに渡し

て「施工を検討しろ」というのはいかにも厳しい話。特に低価格を提示しているハウスメーカーなどでままたまある話とのことなので、ご注意ください。価格が高いにしろ、安いにしろ、そこには理由があるのだ。また、ホームシアターインストラーへの相談は早ければ早いほどいい。内装が始まるまでは手を入れることは可能といえれば可能ではあるものの、現実的には建物の仕様によってホームシアターの仕様に制限がつくこともある。もろもろの設計との整合性を保つためには、原初の設計段階から、「ホームシアターが入る」と関係各位に伝えておくのがベストというわけだ。インストラーの誠実な仕事は最終的には、見えなく、なるわけで、その価値はわかりづらい。しかし、長く付き合う家をつくるためにはこうしたことにも意を払うべきだろう。わからないことを相談しに行くのだから、調べるにも限度はある。そこで、最終的な業者選びは、若干の金額の多寡よりは「この人をお願いしたい」と思える、フィーリングが大事なのではないかと、木田電業からアドバイスをいただいた。素直に予算、希望、懸案事項を整理してお伝えして、それをじっくりと聞いていただく。そこからホームシアターづくりが始まる。